2009年度授業改善研修参加レポート　　所属（現代中国学部）　氏名　土橋　喜

「研修会等名称」

平成 21 年度　全国大学 IT 活用教育方法研究発表会

場所：アルカディア市ヶ谷（東京，私学会館）
期間：2009 年 7 月 4 日(土)

１．研修の内容

（１） 研究発表会の開催趣旨

今回参加した研究発表会は，私立大学情報教育協会が 1998 年から毎年開催しているもので, 情報教育関係者のファカルティ・ディベロップメントを目的にしたものである.

協会の開催趣旨によれば,「全国の国公私立大学・短期大学教員を対象に，教育改善のための IT 活用による FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し，その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的として実施されている．優れた発表に対しては論文誌に掲載するとともに，文部科学大臣賞や協会賞を授与し，その教育業績を顕彰する．これまで文部科学大臣賞 4 件，協会賞 28 件，奨励賞 37 件などを授与し，教育改革へ貢献している.」

今年度の参加は，99 大学，8 短期大学，1 高等専門学校，賛助会員 1 社で，合計 155 人が参加し，発表件数は 54 件であった．研究発表会の参加者の大多数は私立大学の情報教育に関係ある教職員で，国立大学の参加者は少ない．愛知大学からも筆者のほかに 2 名が参加している.

中部地区からは愛大のほかに，愛知学院，愛知工業大学，大同大学，中部大学，名城大学，鈴鹿医療科学大学などからも参加者があった．参加者は情報技術の専門家に限定されているわけではないので，各種の分野から多様な IT 活用者が参加している.

研究発表会の内容は予稿集にまとめられ，予選を通過した発表者の論文は「情報教育方法研究」という論文誌に記載される.

（２） 研究発表会

今回（7 月）の発表会は 4 会場に分かれて行われた．A 会場は初年次・初等中等・理学系教育，B 会場は医療・社会科学系教育， C 会場は芸術・情報専門・情報基礎系教育，D 会場は工学・生活家政・語学教育が中心であった.

今回は 1 次選考を兼ねた研究発表会になっており，1 次選考ではあるが研究発表は事前に簡単な書類審査が行われており，その書類審査の通過者による発表であった．書類審査への応募者は 88 件であり，通過者は 54 件であったが，これらの数は開催年によって差があるようだ.

今回の 1 次選考発表会で優れた研究発表であると認められると，A4 判 5 枚の論文を提出することができ，9 月に行われる 2 次選考発表会（授賞選考発表会）に参加することになる.

1 次選考の通過者の数はまだはっきりしないが，論文誌の「情報教育方法研究」に記載される論文の数が毎年 8 件から 12 件程度であるので，記載される論文数だけは 1 次選考会を通過していると思う．採択率は 20%程度かそれ以下と思われる.

２．研修の成果

筆者は e-Learning を活用した社会データ分析やアンケート集計をテーマに予稿を作成して応募したため，B 会場で行われた社会科学系教育のグループで発表を行うことになった．残念ながら筆者は 2 次選考会に進むことはできなかった．7 月 4 日に 1 次選考会が行われたが，7 日には不採択の選考結果がメールで届いた．当日の発表内容には予稿集論文に含まれない内容も含めたが，選考時の評価ではどちらのウエイトが高いかはっきりしない．採択率を予想するとそれなりの成果を上げていないと，1 次選考の通過は簡単ではないと思われる．

研究発表の分野や内容は発表者によって異なるが，今回は特にファカルティ・ディベロップメントを目的にしているので，選考に際しては全体に共通する選考のポイントが明示されている．それらは「教育改善の目的，問題の所在，教育方法の内容と改善，教育実践による改善成果，成果の発展性」である．予選を通過するためには，最低限これらのポイントを満たしている予稿の執筆と発表を行なう必要があると思われる．

発表で取り上げた授業は 2002 年から毎年行っており，少しずつ改善を行ってきた．教材も当初はレジメの配布であったが，その後教科書を作成し，初版，改訂版と書き直した．昨年からはウエブ教材へ作りなおし，今年からは Moodle 上の教材へと移行し，小テストも実施してみた．このような改善のほかに，授業アンケートを行い学生の反応を調べている．

しかしながら，今回参加した研究発表会で求められているのは，選考のポイントに示されているような観点からみて，改善の成果がでているかどうかである．どのような改善を行っても成果が出ないものは意味がない．なおかつ改善を行ったら定性的定量的にその成果を把握する必要がある．今回は予稿集の論文が 2 ページ以内であったため，要求された内容や得られた成果を十分にまとめることができたかどうか疑問が残るし，審査に耐えるだけの魅力ある内容になっていたかどうか，再検討する必要がある．

会場では 5 分の質疑応答時間があったが，一般からの質問は一つだけで，あとは運営委員からのものだったことから，内容的に関心の薄い発表になっていたか，あるいはスライドや発表方法に関心を持てなかったのではないかと反省している．さらに研究テーマとして新規性や重要性があるものになるように再検討したい．

３．授業への研修成果の反映状況

研究発表会では授業改善のためにいろいろな提案がなされており，今回はそれらの発表を聞くだけでも大変参考になった．自分とは分野が異なると思われる研究発表の中にも，教育方法の観点から参考になるものが見つかることもある．今回も自分の授業の中で活用できそうな提案がいくつかあった．これまでもいろいろな改善を行ってきたつもりであるが，まず改善点の効果を定性的定量的に正確に把握する工夫を行う必要があると考えている．教育効果を高める工夫に終わりはなく，今回の研修から来学期も何らかの改善や工夫を取り入れていきたい．

今回参加した研究発表会には，以前発表者ではなく聴講で参加したことがあったが，今回自分で発表してみると，聴講だけの参加より何倍もの成果があったと言えそうである．次回は 2 次選考会に残られるように参加したい．

学 部 長	ＦＤ委員長	ＦＤ委員会	企画・広報課長	係